

人柄で域内各国との協力関係を構築 覚悟の国内改革で中国を追うモディ

インド・ビジネス・センター代表 島田卓

近隣の中国の影響力希薄化狙う
軍事パワーにはハグ外交で対抗

インドが中国のライバルに急浮上している。軍事力をちらつかせ、その経済力を武器にアジア全域をねじ伏せようとする中国に対し、軍事、資金力で劣るインドは戦略的な外交で対抗する。中印のパワーゲームの行方は、アジアの未来や、世界情勢にも大きな影響を与えるはずだ。

中国の習近平国家主席が扱いにくいと感じる外国首脳の一人が二〇一四年五月にインドの首相となったナレンドラ・モディ首相だ。米戦略国際問題研究所(CSIS)のポニー・グレイザー上級研究員

は「中国の習主席がモディ首相を自国利益追求のため率先垂範する指導者」と表現する一方で「中国封じ込めのために必要な域内各国との協力関係を構築する人物」と警戒していると指摘する(PTI通信八月八日付)。

各国首脳の手を握り、相手の体に手を回し、顔を近づけて相手の目を凝視するときの熱情的な姿勢、いわゆる「ハグ外交」は、あらゆるリーダーをしてモディの発言に耳を傾けさせるだけの迫力があり、人懐っこい姿勢の裏に隠された突破力には、習近平も一目を置かざるをえない。いや、反中国を鮮明にしつつある今日、習近平の視線は一目から注視へと変わっている

はずだ。

モディの首相就任後初の外遊先がブータンだった。香港からポーツタンまで延びる中国の海上交通路戦略「真珠の首飾り戦略」の途上にあるブータンを中国に抑えられると、ミャンマーとバングラデシュに挟まれた北東インドのアッサム州等七州が孤立してしまう。逆に中国は「一带一路」を押し進めるうえで譲れないところだ。

今年六月にはブータン西部のドクラム高原に中国人民解放軍が道路建設を始め、その阻止のためインド軍が介入、両軍が対峙した。八月二十八日には、同地域からの軍の撤収に合意したものの、ブータンがインドを頼りにしたことは明

らかだ。

同様にモディはインド首相として二年ぶりとなる訪パを二〇一五年二月二十五日に電撃的に実現した。カシミール地方の領有権問題やテロ騒動などで悪化していた印パ関係を緩和させる狙いと同時に、中国によるパキスタン取り込みを阻止する狙いがある。

中国はパキスタンに対し、「中国パキスタン経済回廊(CPEC)」を提案し、五五〇億ドル(約六兆円)のインフラ投資を持ちかけているからだ。この回廊が完成すれば、中国は新疆ウイグル自治区經由アラビア海に臨むグワダル港までの陸路を得ることができる。米印日豪等がにらみを利かすマラッカ海

峽経由のインド洋航海依存性が軽減される。一方で経済不振に苦しむパキスタンにとって、CPECは干天の慈雨だ。資金面ではインドは中国にはかなわない。ではモディはその不利な形勢の中で、どのように近隣諸国との協調を引き出そうとしているのか。

中国の欺瞞的野望を縷々説明
高齢化する中国、若いインド

説得材料は中国の欺瞞的野望だ。



あまり笑っていないモディ首相と習近平主席

鉄鋼など余剰気味の自国生産品の消費地として中東・アフリカまでも包含したネットワークを作る。外貨支援の形をとった撒き餌は返済不能に陥った場合、対象となる資産や権益のはく奪につながる。この隠された中国の野心を関係諸国に解らしめ、対外侵略といった野望を持たないインドとの関係強化を働きかけていくことが、モディの推進する外交戦略だ。

すでに二〇一五年一月のスリランカの選挙では、親中国で現職大統領のラジャパクサが、中国一辺倒の危機感を訴えた野党統一候補のシリセナに敗れている。これには印米の背後支援があった。選挙後インドはスリランカに対し、インフラ整備に二〇〇〇億ルピー(約三七〇〇億円)の援助を申し出ている。

昨年一〇月、習近平が中国国家主席として約三〇年ぶりとなるバングラデシュの首都ダッカ訪問を行いハ

シナ首相と会談。チッタゴンの港湾整備などを含む二七項目のインフラ整備事項に合意、二〇〇億ドル(約二兆一〇〇億円)の融資を約束すれば、インドは今年四月に、ハシナ首相の七年ぶりとなるインド公式(国賓待遇)訪問を実現。防衛協力などを含む二二項目で合意、更に軍備費五億ドル(約五五〇億円)を含む五〇億ドルの追加支援を発表している。

昨年九月には、モディは南シナ海問題に関連付けて、インド首相として二五年ぶりとなるベトナムを訪問。首都ハノイでグエン・スアン・フック首相と会談し、高速警備艇四隻の提供や防衛装備強化のため五億ドル(約五五〇億円)の融資枠設定を決めている。

いまのところ、中印の近隣諸国政策はオセロゲームのように、新しい手を打ったほうの形勢がよくなり、それを覆そうともう一方が手を打つ形が続いている。国力ではインドが劣ると、何度か指摘したが、中国では今後、一人っ子政策がもたらした歪な人口

構成が経済成長の足かせとなる。欺瞞的野望に走るのも、このためだ。ともに一三億人台の人口をもつ中国とインドだが、国連の予想では、中国は二〇三〇年で人口増加が頭打ちになる一方、インドは二〇六〇年まで増加を続け、二〇二五年にはインドが人口のトップに立つ。インドのピーク時の推定人口は一六億七九〇〇万人だ。

中国が急速な高齢化を迎える一方で、インドでは二〇一五年時点で一四歳未満層が三割近くもいるのが特徴。高齢者人口比率が二割を超えるのは二〇七五年に入ってからとなる。人口とその構成比の予測は、将来の国力を示唆する。

二〇一六年二月八日夜
「デリー国際空港での衝撃」

それではインド国内はどうか。三年連続で七割を超える高い成長率を実現してきたインド経済の今年四月から六月までのGDPは、前年同期比五・七割と三年ぶりの低水準となった。昨年一月にモディ政権が脱税対策などを理由に

行つた高額紙幣の廃止と、その後
の混乱で消費が低迷したことが要
因とメディアは書き立てる。
しかし、モディはこうした状況
を覚悟していたに違いない。
ちょうどその日、一週間の出張
を終え、デリー国際空港の搭乗ゲ
ートに向かい始めたとき、筆者は
異様な雰囲気呑み込まれた。空
港内にあるすべてのテレビ画面に
映し出されたモディが一心不乱に
話し続けていた。発行紙幣額の九
割近くを占める一〇〇ルピーと
五〇〇ルピーの高額紙幣廃止の即
日実施という衝撃の演説だった。

同時にモディが進めているのが
キャッシュレス社会だ。各種補助
金の中間搾取や、せびり、納税の
不正などは、現在一億人が登録
済みといわれる生体認証システム
(Aadhaar, Pay-Aar, Digital Pay)
で、銀行口座に直接振り込む、ま
たは引き落としとかなり回避
できることになる。インドが国際
的な大国になるためには、とにか
くまともな社会を構築することが
必須とモディは確信し、実行しよ
うとしているのだ。

インド経済はトリプルエコノミ
ーといわれてきた。インドの国家
予算約二〇兆ルピー(約四〇兆円)
と同程度の地下経済と不正国外
持ち出しがあったからだ。地下経
済の一例を紹介しよう。友人のネ
ルー大学大学院教授が家を買った
ときの売買契約書記載金額は総支
払額の半分で、他の半分は領収書
なしの現金支払いで地下に流れる。
これで省けた印紙代で軽乗用車が
買えたという落ちまでついた。ま
た、二〇一二年二月時点でインド
人が海外租税回避地に有する推定
資金額は五〇〇〇億ドル(約五〇兆
円強)と発表されている。

地上と地下、そして海外を結ぶ
のがインド最大のビジネスといわ
れる「ハワラ取引」だ。カネが必
要な政治家は許認可等に絡めて賄
賂をせしめる。その手先として高
級官僚が絡み、こちらも甘い汁を
吸う。不正資金なので銀行預金は
ご法度。そのため国外に持ち出す
手段として「ハワラ取引」を使う。
特殊ルートで知り得たハワラ業者

しかし、今後、これが最大の経
済効果を生み出すはずだ。
それまでインドでは越境税(オ
クトロイ)等に代表される州ごと
に異なる複雑な税法系だった。そ
れが、物流を阻害し、不要な支出
時間の浪費、賄賂の横行等、考え
られうる社会悪を生み出してきた。
例えば、商品運搬で他州に入る際
に提出する書類はバラバラ、書類
の不備に関係なく要求される賄賂
(小銭せびり)の交渉でトラックが
動かず渋滞が起こる。手早く通行
したければ、違法とわかっていて
も袖の下は必須という有様だった。
これらを含め、従来の税制が生
み出していた社会的ロスは計り知
れない。インド経済のアキレス腱
といわれる割高な国内生産コスト
はこういった社会構造から生まれ
外資導入の非関税障壁となってい
た。複雑税制に起因する悪商習慣
打破への道を開いたことは、G S

「導人に伴ういかなる一時的混乱
をも正当化する。
また、ニューデリーなどの主要
都市では突然のガサ入れで不当マ
ージンをむさぼる中間業者を摘発
している。中間業者による過剰な
追加マージン(商品ころがし)は
インフレを助長してきたからだ。
その効果の一端は早くも現れてい
る。一四年五月のWPI(卸売物
価インフレ指数)六・〇一割とC
PI(小売物価インフレ指数)八・
二八割とのスプレッドは二・二七
ポイントだったものが、一七年五
月にはWPI二・一七割、CPI
二・一八割とほぼスプレッドは解
消された。それ以外にも各種規制
の撤廃などを通し、インドへの投
資を容易にし、自国産業の拡大に
腐心している。

野党や国民会議派(資金源)寄
りのマスコミや経済学者などはイ
ンド経済のへこみ部分を取り上げ
「言うほど改革は進んでいない」見
掛け倒しなどと酷評しているが、
一九四七年の独立以来、七〇年近
くにわたり積み上げてきた悪癖の

に海外の振込先を指定し、
インドルピー現金と所定の
手数料を払えば、数日後に
は指定口座に相当額のドル
が振り込まれる仕組みだ。
証書書類は一切なく、すべ
てが信用取引だ。高額紙幣
廃止とキャッシュレス化の
狙いは、こうした不正を抑
えるためだ。
そしてその狙いの核心は、
ネルー・ガンディー一族が
築き上げてきた王朝にある。
インドの総選挙に投じられ
る資金は、アメリカ大統領選
のそれに匹敵するといわ
れる。実際、目先にぶら下
げられたカネで動く有権者がイン
ドには多い。その資金力(裏金)
では、ガンディー一族に対抗でき
る政治集団は思い当たらない。
モディ自身の政策を貫くには、
少数派である上院選挙に勝ち、二
〇一九年五月実施予定の総選挙で
勝つ(再選される)必要がある。
そのため野党第一党の国民会議派
を完膚なきまで叩いておく、すな

インド統一の大税制改革 強固な意志がもたらした幸運

首相就任三年間で、これほどの
大改革をなし得るには、不退転の
強固な意志が必要だ。そして運に
も恵まれた。最大の幸運は原油価
格の暴落である。若者国家を機能
させるための雇用創出には、産業
拡大が至上命題だが、それに伴い
エネルギー需要の増加も爆発的だ。
だが、インドは自国で消費する原
油の約八〇割を輸入に頼っている。
モディが首相になった二〇一四
年五月のWTI価格(二バレル)
は一〇二ドル。年間総輸入額は二二
七八億ドル(約三兆円)と、同年の
国家予算約一七兆ルピー(約三〇
兆円)のほぼ四割強に相当してい
た。ところが、モディが首相就任
翌月から原油価格の下落が始まり、
二〇一五年一月には五〇ドルを割り
込むまで暴落、その後も概ね四〇
〜五〇ドルの範囲で推移している。
二〇一六年度の原油の年間輸入
額は六七六・八億ドル(約七・八兆

円)、この年の国家予算二〇兆ル
ピー(約三四兆円)に対して二
二・九割にまで低下した。その差
額五・二兆円、国家予算の一五・
三割に相当する資金を再生可能エ
ネルギー事業等の発展に使い、化
石燃料依存度を削減し、環境汚染
対策を進める考えだ。

独立後約七〇年、腐敗した社会
組織を立て直すには生半可な改革
では無理だ。解国的手段で事に臨
む必要がある。その際、社会的し
がらみ(クローニー政治)があつて
はならない。モディはグジャラー
ト州首相になった時から親族とは
一切交流を立ち、母親の誕生日祝
いに出向くだけだ。モディがガン
ディナガール(グジャラト州都)
からデリーの首相官邸に引っ越す
ときの持ち物は旅行かばん二個だ
けだったというから徹底している。
野党がモディ攻撃に窮するのも宣
なるかだ。

わち、彼らの資金源であるガンデ
ー家の(不正)蓄財を無力化し
ておくことが至上命令だと考えれ
ば、一時的な成長力を犠牲にして
まで高額紙幣の即時使用禁止に打
つて出た重要な意味が解る。

モディにとって今年は覚悟の年
になる、もうひとつの混乱要因が
ある。それが今年七月からインド
全土で統一に導入されたGST

に海外の振込先を指定し、
インドルピー現金と所定の
手数料を払えば、数日後に
は指定口座に相当額のドル
が振り込まれる仕組みだ。
証書書類は一切なく、すべ
てが信用取引だ。高額紙幣
廃止とキャッシュレス化の
狙いは、こうした不正を抑
えるためだ。
そしてその狙いの核心は、
ネルー・ガンディー一族が
築き上げてきた王朝にある。
インドの総選挙に投じられ
る資金は、アメリカ大統領選
のそれに匹敵するといわ
れる。実際、目先にぶら下
げられたカネで動く有権者がイン
ドには多い。その資金力(裏金)
では、ガンディー一族に対抗でき
る政治集団は思い当たらない。
モディ自身の政策を貫くには、
少数派である上院選挙に勝ち、二
〇一九年五月実施予定の総選挙で
勝つ(再選される)必要がある。
そのため野党第一党の国民会議派
を完膚なきまで叩いておく、すな

に海外の振込先を指定し、
インドルピー現金と所定の
手数料を払えば、数日後に
は指定口座に相当額のドル
が振り込まれる仕組みだ。
証書書類は一切なく、すべ
てが信用取引だ。高額紙幣
廃止とキャッシュレス化の
狙いは、こうした不正を抑
えるためだ。
そしてその狙いの核心は、
ネルー・ガンディー一族が
築き上げてきた王朝にある。
インドの総選挙に投じられ
る資金は、アメリカ大統領選
のそれに匹敵するといわ
れる。実際、目先にぶら下
げられたカネで動く有権者がイン
ドには多い。その資金力(裏金)
では、ガンディー一族に対抗でき
る政治集団は思い当たらない。
モディ自身の政策を貫くには、
少数派である上院選挙に勝ち、二
〇一九年五月実施予定の総選挙で
勝つ(再選される)必要がある。
そのため野党第一党の国民会議派
を完膚なきまで叩いておく、すな



廃止された高額紙幣